

GRANCERA BEST

ターペン可溶2液セラミックハイブリッド超高耐候無機系屋根用塗料

グランセラTM ベスト 2液ファイン

旧品名：ファインパーフェクトセラミックベスト

ターペン可溶2液セラミックハイブリッド超高耐候無機系屋根用遮熱塗料

グランセラTM ベスト 2液ファイン 遮熱

旧品名：ファインパーフェクトセラミックベスト 遮熱

美しい
つや感

高い
耐久性

防藻
防かび性

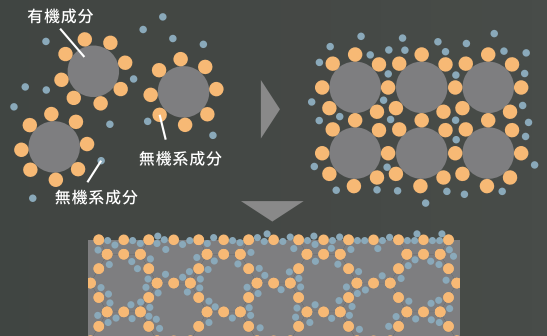
遮熱
タイプ有

住まいの「美観」をまもり、「寿命」を延ばすハイクラス屋根用塗料
グランセラ™ ベスト 2液ファイン
旧品名：ファインパーフェクトセラミックベスト

ラジカル制御技術とセラミックハイブリッド技術を融合。フッ素樹脂塗料を超える高耐候性を誇るハイグレードの屋根用塗料です。

セラミックハイブリッド無機系塗料とは？

無機塗料は紫外線に強く、高い光沢と燃えにくさが特長ですがその反面、塗膜が割れやすいという性質がありました。そこで無機の特長である紫外線への強さや高い光沢と有機の特長である柔軟性をハイブリッド化することで優れた耐久性を発揮します。また、藻やかびの発生を抑制し、屋根の美観を維持します。

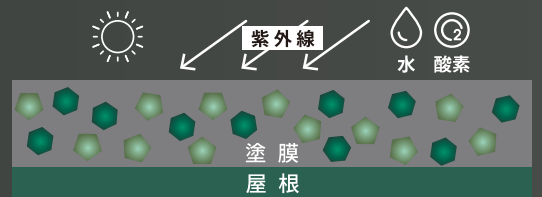


塗膜形成イメージ図

独自技術で紫外線から住まいをまもる、優れた高耐候性塗料

一般的な塗膜は、酸素や水とともに紫外線があたると顔料からラジカルが発生し、塗膜劣化を誘発します。そこで日本ペイントは、特殊光安定剤を複数配合することでラジカル制御技術を最大限発揮し優れた耐候性を有します。

ラジカル制御技術が樹脂の劣化を防ぎます。



特殊光安定剤 (A) 紫外線の到達を阻止しラジカルの発生を抑えます。

特殊光安定剤 (B) 発生したラジカルをおさえ込み塗膜の破壊を抑えます。

● 上塗り塗料の耐候性のグレードレベル

塗料の耐候性には様々なグレードがありますが、ラジカル制御形塗料は住まいを長持ちさせる品質・性能をコストパフォーマンス良く享受できるのが魅力です。グランセラベスト 2液ファインはフッ素を超える高耐候性。長期的に見て塗装回数が減り、お住まいのメンテナンス費用削減につながります。

▲ PERFECT SERIES

GRANCERA SERIES
 グランセラベスト2液ファイン



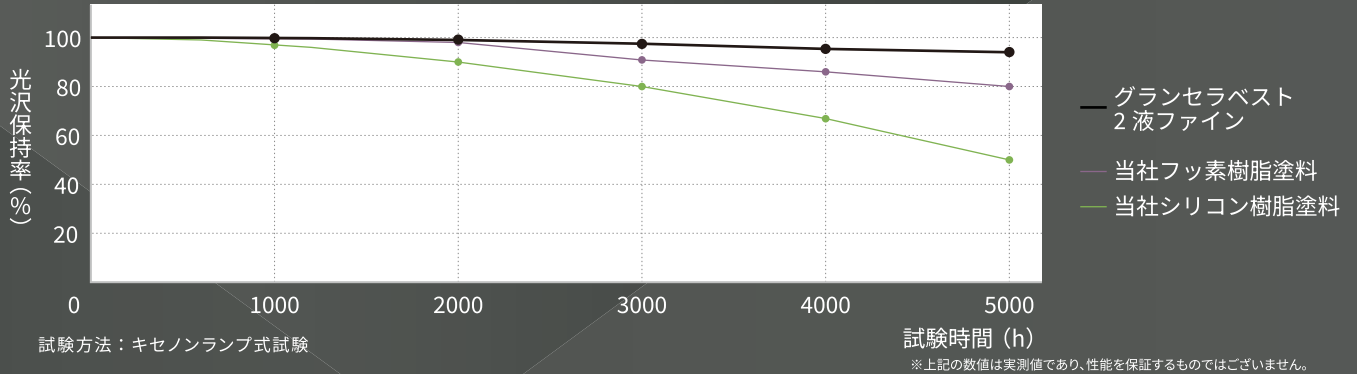


グランセラベスト 2液ファインの主な特長

1. 優れた耐候性

グランセラベスト 2液ファインは、促進耐候性試験において優れた耐候性を示します。

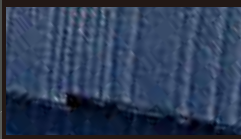
促進耐候性試験



2. 対応屋根材

住宅用化粧スレート、洋瓦、セメント瓦、陶器瓦、トタン屋根等の各種屋根素材に幅広く対応します。

住宅用化粧スレート屋根



洋瓦



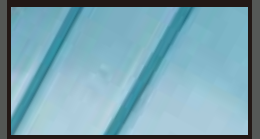
セメント瓦



陶器瓦



トタン屋根



3. 優れた作業性

乾燥が早く、作業性に優れています。

4. 防藻・防かび機能

藻やかびの発生を抑制し、屋根の美観を維持します。

5. 遮熱タイプもラインナップ

赤外線反射率の高い特殊顔料により、遮熱性能を発揮します。

遮熱効果を持つ下塗り（サーモアイプライマーおよびサーモアイシーラーなど）と併用することで遮熱性能が向上します。

6. 選びやすい標準色 ラインナップ<23色> 遮熱色は色名にクールがつきます

ライトグレー	ジェノバブラウン	ナポリブラウン	ブラウン	ミラノグリーン	スカイブルー
ダークグレー	ダークチョコレート	ニューワイン	赤さび	グリーン	ベネチアブルー
ディープグレー	トリノブラウン	チョコレート	ローマオレンジ	ポローニャグリーン	ナスコン
ブラック	コーヒーブラウン	マルーン	オレンジエロー	モスグリーン	

※掲載しているカラーイメージは印刷のため、実際の色味とは異なります。正確な色味については別途色見本帳をご確認ください。
 ※通常色と遮熱色では、顔料の違いから色相が異なる場合があります。特にクールブラック色は顔料の差が大きいため、確認の上施工いただくようお願いいたします。
 ※遮熱タイプの場合、遮熱塗料の特性上、弊社の他遮熱塗料と同じ色相名でも塗料種によって色が異なる場合があります。

塗料性状・荷姿

塗料名	色相	つや	容量	ポットライフ
グランセラベスト 2液ファイン グランセラベスト 2液ファイン 遮熱	通常色23色 遮熱色23色	つや有り	15kgセット(塗料液13.5kg・硬化剤1.5kg) 3kgセット(塗料液2.7kg・硬化剤0.3kg)	6時間以内(23℃)

適用下塗り塗料・適用下地

	適用下塗り塗料	適用下地
屋根	<ul style="list-style-type: none"> ●ファインパーフェクトベスト強化シーラー ●ファインパーフェクトシーラー ●ファイン浸透造膜シーラー ●ファイン浸透シーラー ●サーモアイシーラー ●サーモアイプライマー 	<ul style="list-style-type: none"> ●1液ベストシーラー ●パーフェクトプライマー ●ハイボンルーフデクロ ●1液ハイボンファインデクロ ●ハイボンファインプライマー II ●エスパワンエース
		<ul style="list-style-type: none"> ●住宅用化粧スレート屋根 ●洋瓦 ●セメント瓦 ●陶器瓦 ●トタン屋根

※グランセラベスト 2液ファイン 遮熱の場合は、日射反射率の向上のために、下塗りには遮熱機能のあるサーモアイプライマー/サーモアイシーラーを推奨します。

※透明色を含むそれ以外の下塗りもご使用いただけますが、日射反射率がやや低下する可能性があります。

※下地の劣化が著しい場合は、「ファインパーフェクトベスト強化シーラー」または「ファイン浸透造膜シーラー」をご使用ください。

乾燥時間

	5~10℃	23℃	30℃
指触乾燥	60分	30分	20分
塗り重ね乾燥	4時間以上7日以内	3時間以上7日以内	2時間以上5日以内

※乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

標準塗装仕様(塗り替え) 下塗り塗料を選ぶことでスレート・洋瓦・鋼板屋根に対応可能です。

●住宅用化粧スレート屋根・波形スレート屋根 塗り替え

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法	
下地調整	ごみ、ほこり、かび、こけ、藻など、付着物は入念に除去する。素地に近づけ 9.8MPa(=100kgf/cm ²)以上の高圧水流が望ましいが、高圧水洗ができない場合はホースで水を流しながら金属ワイヤブラシなどを用いて清掃する。水洗い後は翌日まで乾燥させる。旧塗膜がある場合は、浮いたり、割れたり、膨れたりしている劣化塗膜、露出している着色セメント層を入念に除去する。十分に付着している塗膜は残してよい。							
下塗り	2液	ファインパーフェクトシーラー	1~2 ^{※1}	0.15~0.30	4時間以上7日以内 ^{※2}	無希釈 ^{※3}	-	はけ・ウールローラー エアレススプレー
	2液	ファイン浸透シーラー		0.15~0.30	4時間以上5日以内 ^{※2}			
	1液	1液ベストシーラー		0.15~0.30	3時間以上7日以内 ^{※2}			
	1液	ファインパーフェクトベスト強化シーラー		0.15~0.30	4時間以上5日以内 ^{※2}			
上塗り	グランセラベスト 2液ファイン	2	0.15~0.18	3時間以上7日以内	塗料用シンナーA	0~10	はけ・ウールローラー エアレススプレー	
縁切り	水切り部で化粧スレートの上下の重なり部分が塗料でつまっている箇所は縁切りを行う。							

注) 下塗りにはファイン浸透造膜シーラーもご使用いただけます。

※1 シーラーは、ぬれ感が出るまでを目安にしてください。素地への吸い込み箇所がある場合は、その部分を増し塗りしてください。また、シーラー乾燥後ガムテープで基材のはがれがないかチェックし、はがれなどがある場合は再度シーラーを塗付してください。

※2 ファインパーフェクトシーラー、ファイン浸透シーラー、1液ベストシーラー、ファインパーフェクトベスト強化シーラーは、高温下では硬化反応が著しく速まります。高温時の施工では、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。

※3 少しでも希釈すると付着性が低下します。

●洋瓦屋根・セメント瓦屋根 塗り替え

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法	
下地調整	ごみ、ほこり、かび、こけ、藻など、付着物は入念に除去する。素地に近づけ 9.8MPa(=100kgf/cm ²)以上の高圧水流が望ましいが、高圧水洗ができない場合はホースで水を流しながら金属ワイヤブラシなどを用いて清掃する。水洗い後は翌日まで乾燥させる。旧塗膜がある場合は、浮いたり、割れたり、膨れたりしている劣化塗膜、露出している着色セメント層を入念に除去する。十分に付着している塗膜は残してよい。							
下塗り	1液	ファインパーフェクトベスト強化シーラー	1~2 ^{※1}	0.15~0.30	4時間以上5日以内 ^{※2}	無希釈 ^{※3}	-	はけ・ウールローラー エアレススプレー
上塗り	グランセラベスト 2液ファイン	2	0.15~0.18	3時間以上7日以内	塗料用シンナーA	0~10	はけ・ウールローラー エアレススプレー	
縁切り	水切り部で化粧スレートの上下の重なり部分が塗料でつまっている箇所は縁切りを行う。							

※1 シーラーは、ぬれ感が出るまでを目安にしてください。素地への吸い込み箇所がある場合は、その部分を増し塗りしてください。また、シーラー乾燥後ガムテープで基材のはがれがないかチェックし、はがれなどがある場合は再度シーラーを塗付してください。

※2 ファインパーフェクトベスト強化シーラーは、高温下では硬化反応が著しく速まります。高温時の施工では、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。

※3 少しでも希釈すると付着性が低下します。

●鋼板屋根・トタン屋根 塗り替え

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法	
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜、さび、付着物などの周辺をワイヤブラシ、ケレン棒などで除去する。溶接部のさびは、電動工具で除去する。油脂分、水分は溶剤ふきを行い清浄な面とする。							
下塗り	1液	ハイボンルーフデクロ または 1液ハイボンファインデクロ ^{※1}	1	0.13~0.15	4時間以上7日以内	塗料用シンナーA	5~10	はけ・ウールローラー
	2液	パーフェクトプライマー ^{※1}		0.14~0.16 0.16~0.18	4時間以上7日以内 ^{※2}	塗料用シンナーA	0~5 0~5	はけ・ローラー エアレススプレー
上塗り	グランセラベスト 2液ファイン	2	0.12~0.14	3時間以上7日以内	塗料用シンナーA	0~10	はけ・ウールローラー エアレススプレー	

注) 塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

※1 下塗りにはハイボンファインプライマー II やエスパワンエースもご使用いただけます。

※2 高温下では硬化反応が著しく速まります。高温時の施工では、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。

注) 上記の各数値は、すべて標準のもので、被塗物の形状、種類、素地の状態、気象条件、施工条件などによりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

注) 旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。

GRANCERA BEST

「高耐候性」をそのままに「遮熱性能」を発揮します
グランセラ™ ベスト 2液ファイン 遮熱

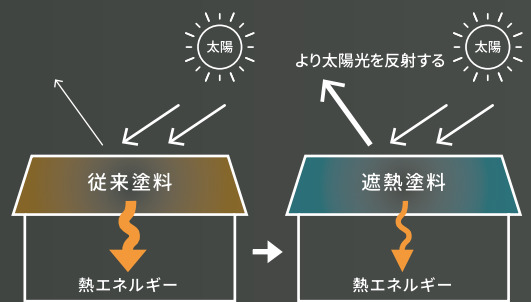
旧品名：ファインパーフェクトセラミックベスト 遮熱

フッ素樹脂塗料を超える高耐候性に遮熱性能を加えたハイグレードの屋根用塗料です。

無機系塗料×遮熱とは？

太陽の光を直接受ける屋根は、塗膜の劣化を招く紫外線と熱を伝える赤外線の影響を強く受けます。

グランセラベスト 2液ファイン 遮熱は、ラジカル制御技術とセラミックハイブリッド技術による高耐候性と赤外線反射率の高い特殊顔料による遮熱効果を合わせ持ち、長期間にわたり住まいを太陽光からまもりまします。また遮熱効果により屋根の温度上昇を抑え、室内に伝わる熱エネルギーを低減します。



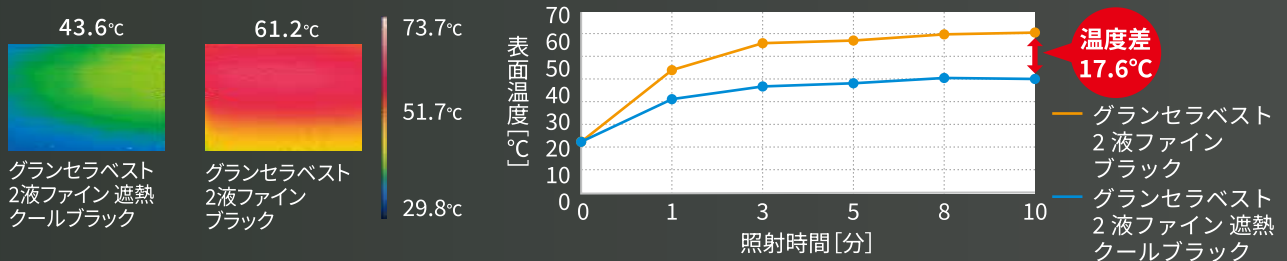
遮熱性能

塗装表面の温度上昇を抑制し、かつ無機系のハイグレードな耐候性により、遮熱性能の低下を招く色相の変化を抑え、長期にわたり遮熱性能を保持します。

● 塗装表面の遮熱性能の検証 遮熱塗料と通常塗料を塗装した板に赤外線ランプを照射し、表面温度を測定しました。

塗装表面温度の分布

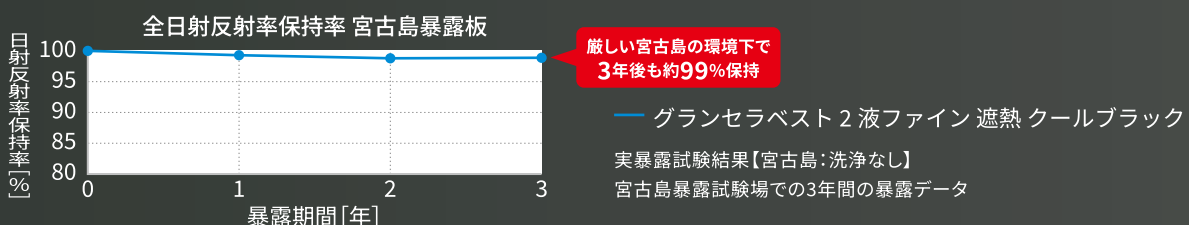
※基材:金属板 下塗り:サーモアイプライマー



● 長期的な遮熱性能を実証 グランセラベスト 2液ファイン 遮熱を塗装し、暴露試験を行いました。

日射反射率を長期的に維持

※基材:金属板 下塗り:サーモアイプライマー



遮熱標準塗装仕様(塗り替え) 遮熱効果を持つ下塗りと併用することで遮熱性能が向上します。

● 鋼板屋根・トタン屋根 塗り替え

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜、さび、付着物などの周辺をワイヤーブラシ、ケレン棒などで除去する。溶接部のさびは、電動工具で除去する。油脂分、水分は溶剤ふきを行い清浄な面とする。						
下塗り(遮熱)	サーモアイプライマー	1	0.16~0.18	4時間以上5日以内 ^{**}	塗料用シンナーA	0~10 0~5	はけ・ウールローラー エアレススプレー
上塗り	グランセラベスト 2液ファイン 遮熱	2	0.12~0.14	3時間以上7日以内	塗料用シンナーA	0~10	はけ・ウールローラー エアレススプレー

^{**} 高温下では硬化反応が著しく速まるため、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。塗り重ね間隔が空くと、上塗りとの密着が悪くなります。

● 住宅用化粧スレート屋根・波形スレート屋根 塗り替え

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	ごみ、ほこり、かび、こけ、藻など、付着物は入念に除去する。素地に近づけ9.8MPa (=100kgf/m ²)以上の高圧水洗が望ましいが、高圧水洗ができない場合はホースで水を流しながら金属ワイヤーブラシなどを用いて清掃する。水洗い後は翌日まで乾燥させる。旧塗膜がある場合は、浮いたり、割れたり、膨れたりしている劣化塗膜、露出している着色セメント層を入念に除去する。十分に付着している活膜は残してよい。						
下塗り(遮熱)	サーモアイシーラー	1~2 ^{**1}	0.14~0.28	4時間以上5日以内 ^{**2}	無希釈 ^{**3}	—	はけ・ウールローラー エアレススプレー
上塗り	グランセラベスト 2液ファイン 遮熱	2	0.15~0.18	3時間以上7日以内	塗料用シンナーA	0~10	
縁切り	水切り部で化粧スレートの上下の重なり部分が塗料で詰まっている箇所は縁切りを行う。						

注) 塗り替えで、素地の劣化が表面の場合は、1液ベストシーラーを塗装してください。素地の劣化が著しい場合や下地が洋瓦、セメント瓦、陶器瓦の場合は、ファインパーフェクトセラミック強化シーラーを塗装してください。

注) ファインパーフェクトセラミック強化シーラーの上に他のシーラーを塗装しないでください。縮みが生じる可能性があります。

^{**1} シーラーは、ぬれ感が出るまでを目安にしてください。素地への吸い込み箇所がある場合は、その部分を増し塗りしてください。また、シーラー乾燥後ガムテープで基材のはがれがないかチェックし、はがれなどがある場合は再度シーラーを塗付してください。

^{**2} 高温下では硬化反応が著しく速まります。高温時の施工では、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。

^{**3} 少しでも希釈すると付着性が低下します。

注) 上記の各数値は、すべて標準のもので、被塗物の形状、種類、素地の状態、気象条件、施工条件などによりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

注) 旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。

注) 塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

注) 遮熱塗料は、特殊な調色を行っていますので、使用量が少なくなると、色相が変化して見えたり、十分隠れないなかったり、遮熱機能が低下するなどの場合があります。

注) 日射反射率の向上のために下塗りには白色のサーモアイプライマー/サーモアイシーラーを推奨します。透明色を含むそれ以外の下塗りもご使用いただけますが、日射反射率がやや低下する可能性があります。

施工上の要点と注意事項 *詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。

1. 下塗りにサーモアイシーラー、サーモアイプライマー以外の下塗りもご使用いただけますが、日射反射率が低下する可能性があります。2. 水切り部で屋根材の重なり部分に塗料が付着し詰まっていると、漏水の原因になります。皮すき、ケレン棒、カッターなどを用いて溜まった塗料を除去する縁切りを行ってください。3. 水洗い後は、1日以上乾燥させてください。また素材表面が雨、露などによって濡れている場合は、十分に乾燥するまで塗装しないでください(光沢低下、膨れ、割れ、はく離の原因となります)。4. 下地調整が不十分だと塗膜はく離の原因となり、光沢が出ないなどの 仕上がりが不良になる場合があります。塗り替えでは必ず素地に近づけ9.8MPa (=100kgf/cm²)以上の高圧水洗が金属ワイヤーブラシなどによるケレン後、水洗いを実施し、付着物、劣化塗膜や基材の劣化を十分に除去してください。5. 昼夜の温度差が激しい時期や、山間部など夜露の早く降りる地域では、結露によるつや引け現象が起こりやすいため、早めに塗装を終えて十分に乾燥時間を確保してください。塗装後早期に結露の影響を受けると光沢低下や膨れ、割れ、はく離の原因になります。6. 遮熱塗料では、特殊な顔料を使用しているため、使用量が少なくなると色相が変化して見えたり、十分に隠れないことがあります。十分な使用量が得られるように、標準塗装仕様を厳守してください。7. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。8. 粘土瓦の種類で油葉瓦へ塗装する場合は、ファインパーフェクトセラミック強化シーラーを下塗りとしてお使いください。その他の粘土瓦(いぶし瓦など)には使用しないでください。9. 洋風コンクリート瓦仕様の再塗装の場合は、別途最寄りの営業所にお問い合わせください。10. 経年劣化や下地の劣化が著しい場合は、「ニッペファイン浸透造膜シーラー」、「ニッペファインパーフェクトセラミック強化シーラー」をご使用ください。11. シーラー類、サフェーサーと上塗りの混合は避けてください。はけ、ローラーなどの共用も避けてください。12. 下塗り乾燥後、ガムテープで基材のはく離がないかチェックし、はく離がある場合は、再度下塗りを塗付してください。13. 防さび性はありません。むね、すみむねなど金属製物物が、さびている場合は、発錆部とその周囲を十分にケレンし、下塗りに、「ニッペ1液ハイボンファインデコ」塗装後、上塗りを塗装してください。14. トタン素地が見えている所、さびの生じている所はケレン後、必ずさび止め塗料を塗装してください。使用できるさび止め塗料については、各塗装仕様書をご参照ください。15. 塩ビソル鋼板の上の塗装は、避けてください。ただし、経年でつやが引けているような塩ビソル鋼板に対しては、変性エポキシ樹脂プライマーを下塗りに使用することで塗装できる場合があります。詳細は事前にご相談ください。16. 塗り替え後は、滑雪性がよくなる場合があります。積雪時にまとまった雪が落ちる可能性がありますのでご注意ください。17. 無石綿スレート板に塗装すると反りやクラックが発生する可能性があります。18. 十分な塗膜性能を確保するため、規定の使用量をおまもりください。19. ごみ・ほこり・砂・油・樹液などは、塗装前に水洗い、溶剤拭きなどで十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。20. 防露・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。21. 遮熱性能は、色相によって異なります。詳細については、お問い合わせください。22. 遮熱塗料は特殊な顔料を使用していることから、一般塗料と比較して塗料表面に特定の色が浮きやすい傾向にあります。十分にかくはんにしてご使用ください。23. 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダシ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず

所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。24. 異なる色相を塗り重ねる場合(例:1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など)2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色(ブリード)によりする場合がありますのでご注意ください。25. 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。26. 水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。27. 硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。28. 塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。29. 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合(高湿度、結露、降雨など)、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。30. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。31. 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。32. 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりが作業性が低下することがあります。33. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。34. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。35. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。36. 薄めすぎは隠れ力不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。37. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。38. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。39. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。40. 汚れ、さびなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。41. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、ほじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。42. 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。43. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。44. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。45. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。46. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。47. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時は、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■詳細な内容、表示例以外の商品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608
東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180
関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346
北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861
中部支店 ☎052-461-1960

●本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
●本カタログの商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
●Copyright © 2024 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
●日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.
NP-C112
AZ240820T
2024年8月現在